

たかたか映画……
されど映画。

アンダーグラウンドのスター
カウター・カルチャーのヒーロー
NYインディーズならではの
顔ぶれが結集した
パーク・ハート監督初の長編。

1984年 アメリカ映画 カラー 85分

監督＝ジェイコブ・パークハート

出演＝リートソバ

ビル・ライス

アレキサンダー・バーク

ケリアム・バロウス

ヨシコ・チャー

戸井十月

配給＝ユーロスベース

映画を探して

IT DON'T PAY TO BE AN HONEST CITIZEN

盗まれたフィルムを追ってさすらい、迷宮のニューヨーク・ジーン

二度と撮れない
映画を探して……。

青年の孤独な心情が
夜のハイウェイを突っ走る。

映画を探して IT DON'T PAY TO BE AN HONEST CITIZEN

1984年 アメリカ映画 カラー 85分

製作+監督+脚本+撮影+編集=ジェイコブ・バークハート/共同脚本=ロシェル・クロート+リード・バイ/音楽=ヒュー・レヴィック/歌=リード・バイ
出演=リード・バイ(映画青年)/ジム・ニュー(ポリス)/アレン・ギンズバーグ(弁護士)/ビル・ライス(酒場の男)/ウィリアム・パロウズ(マフィアの親分)/
ルディ・バークハート(浮浪者)/ヨシコ・チューマ(黒岩夫人)/戸井十月(日本人)/ジェイコブ・バークハート(チンピラ)

●たかが映画……されど映画。

ニューヨーク、夜のブルックリン。ドキュメンタリー映画「鳩の歌声」を一年がかりで仕上げて帰宅した映画青年ウォーレンは、若い男女の強盗に襲われ、現金と完成したばかりのフィルムを奪われる。ウォーレンの通報によって犯人たちはすぐ捕まるが、盗まれたフィルムは見つからない。

映画を探してウォーレンの追求の物語が始まる。犯人の仲間による脅迫。友人や知人たちの忠告。詩を口ずさむ弁護士、行きつけのバーの客たち、マフィアと顔見知りの友人……そして犯人の若い男女。ついに犯人の仲間の二人組に襲われ、危うく難を逃れたウォーレンは、マフィアの手を借りるためにボスに会いに行く……。

たかが映画……されど映画。二度と同じものが作れない映画を探して……周囲に理解されない映画青年の孤独な心情が夜のハイウェイを突っ走って行く。

●かいせつ

村山匡一郎

一年間の努力の結晶たる映画のフィルムを盗まれてしまった映画青年。その彼が奪われたフィルムを探して駆けめぐる『映画を探して』は、映画をめぐる映画である。

映画をめぐる映画——。だが、ここには、かつてヌーヴェル・ヴァーグの映画青年たちに見られたような映画の派手な引用もなく、また出来上がったスタイルを用いることで映画を語るキッチュな装いも見られない。あるいは、映画を撮った経験のある者なら自分が映画を撮っていることをテーマにして映画を撮ってみたいという欲望を一度は抱くそうだが、そうした映画青年のメタ映画的な欲望すら影が薄く見える。ここにあるのは、自分でこつこつと丹念に作り上げた映画が奪われた時の素朴なリアクションであり、失われた映画をひたすら探し続ける映画青年の心情だけである。

この映画は、バークハート監督自身が1977年暮れに実際に体験した出来事に基づいているという。これまで16ミリでこ

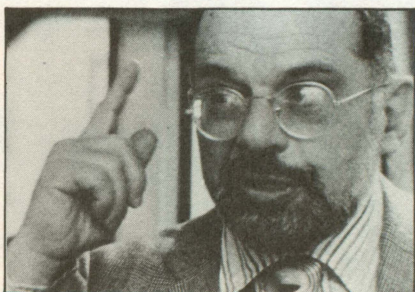
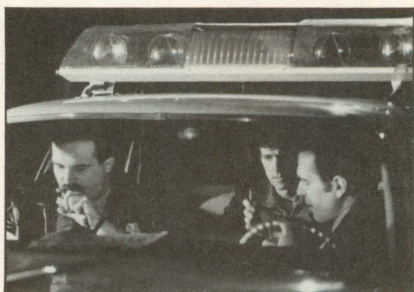
つこつと自主製作を続けてきた監督自身の生きた体験と心情が、この一見して素朴で地味な装いをもった映画に込められているのだ。たかが映画……されど映画。映画青年の心情をこれほどあからさまに吐露した映画も珍しい。

この映画の舞台は、ニューヨークのブルックリン。監督自身の体験に近づけるため、場所も台詞の一部も当時の体験で得たものをできるだけ使ったという。だが、この映画はノン・フィクションではない。あくまで再現されたひとつのドラマである。それでもこの映画に一種のドキュメンタリー的な緊張感が漲っているとすれば、それはニューヨークの街そのものがここで主役になっているからだろう。主人公が駆け抜けるブルックリンの街頭。そこには人々の生の生活が息づいているようだ。そうしたニューヨークという都会の実感がこの映画のフィクションに魅力を与えている。

この映画が昨年のベルリン映画祭で公開された時、誰もが注目したのは出演者の顔ぶれである。生真面目な主人公の映画青年を演じ、また主題歌を歌っているリード・バイも詩人であるが、あのビート・ジェネレーションの代表者であるアレン・ギンズバーグが弁護士を演じ、またウィリアム・S・パロウズがマフィアのボスを演じているといった具合に、カウンター・カルチャーのヒーローたちがこの地味で質素な映画に顔を出しているのだ。ハワード・ブルックナーの『パロウズ』もさることながら、NYインディーズの交際範囲の広さがよくわかる。またバークハート夫人のヨシコ・チューマや監督自身の父親も顔を見せ、これぞインディペンデントといった出演者たちである。

それにしても、ニューヨークのアパートの窓にはどうしてカーテンが掛かっていないのだろうか。ジム・ジャームッシュの『ストレンジャー・ザン・パラダイス』にしてもそうだが、カーテンのない窓から射し込む光は美しく、その光のなかを猫のウォルターがのっそりと横切る光景には思わずハッとさせられる。

(むらやま きょういちろう=映画評論家)



「ユーロスペース」ナイトムービー
8月30日(土)より公開!

月一金21:00/土日祭20:00

当日1200円 前売1000円(都内各プレイガイド、チケットぴあ、チケット・セゾン)

ユーロスペース tel. 461-0211

渋谷駅南口東急プラザ側下車2分 東急観光うしろ

